



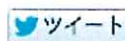
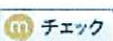
k10010407081_201602121821_201602121823.mp4

東京都内でインフルエンザの患者が急激に増えていることから都は12日、インフルエンザの「流行警報」を出し、手洗いやうがいなど予防の徹底を呼びかけています。

東京都によりますと、今月7日までの1週間に都内の419の医療機関から報告されたインフルエンザの患者数は、1つの施設当たり39.4人で、前の週のおよそ1.5倍と急激に増えています。

このため都はインフルエンザが大きな流行になっているとして12日、「流行警報」を出しました。都によりますと、今シーズンに入って都内の幼稚園や学校でインフルエンザによるとみられる学級閉鎖は、延べ981件に上っています。最も流行しているのは、7年前に新型インフルエンザとして流行した「H1N1型」でおよそ56%を占め、次いでA香港型がおよそ26%となっています。

また、9歳以下の子どもや高齢者は、重症化して入院するケースも多いということです。都はこまめに手洗いやうがいをしたり室内の換気を行ったりして予防を徹底するほか、せきやくしゃみが出る場合はマスクを着用するよう呼びかけています。

 ツイート  シェアする  チェック 

※クリックするとNHKサイトを離れます。

関連リンク

- ・ [さらに患者増えるおそれ ニュースウオッチ9 \(2月5日\)](#)

主要ニュース

- ・ [“拉致被害者の調査中止” 政府は全力の取り組みを](#)
- ・ [拉致問題相 北朝鮮に粘り強く働きかけ](#)
- ・ [中国外相 韓国の迎撃ミサイル配備に強く反対](#)
- ・ [4月下旬並みの暖かさ 雪崩などに注意](#)